

大腸癌予後予測におけるマルチオミクスリスク分類と融合した腫瘍画像特徴の役割に関する研究

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究実施体制

代表研究機関 中山大学附属第六医院中山大学附属第六医院（研究代表者） 高峰
共同研究機関 済生会熊本病院（研究責任者） 外科 泉 大輔

研究の目的と方法

消化器癌は依然として予後不良で世界的に発生率の高い一般的な悪性腫瘍です。そのため、その正確な予後予測は、個別化治療計画を策定し、臨床成果を向上させるために極めて重要であると考えています。AI(人工知能)を用いたラジオゲノミクスのマルチモーダルデータセットの統合分析は、癌のサブタイプ分類や患者さんの予後予測において有望な成果を示していますが、その臨床応用には高額なコストがかかり、実施が困難です。

そのため、ラジオゲノミクスのデータセットを使用して予後を予測し、CT 画像のみを用いた高性能予測を可能にすることで CT 画像の臨床応用を強化することを目指してこの研究を実施します。

診療を通じて得られた情報を使用し、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2007 年 12 月～2020 年 4 月に済生会熊本病院に入院し、胃癌・大腸癌の根治切除を行った方

使用する試料・情報

年齢、性別、臨床病期、CT 検査、内視鏡検査、病理学的所見、治療内容（入退院日、手術日、経口摂取開始日、合併症有無・種類・重症度、最終無再発/生存確認日）など

利用開始予定日：2024 年 1 月 5 日

研究予定期間

2024 年 1 月 5 日～2024 年 7 月

個人情報の取り扱い

本研究では、2024 年 1 月より、中山大学（中華人民共和国 広東省）へ前項の「使用する試料・情報」に記載された情報提供を行います。当院からの情報提供の際に、氏名等を削除し、個人が特定できないよう加工します。また、中華人民共和国では下記の情報保護体制がとられており、患者さんのプライバシーは守られます。研究の成果は学会等で発表予定です。

[研究の情報管理責任者] 外科 泉 大輔

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

[中華人民共和国の個人情報保護体制]

個人情報の取り扱いに係る国際的な枠組み（EU や APEC など）の認定はありませんが、国独自で個人情報保護法、中華人民共和国サイバーセキュリティ法、中華人民共和国データセキュリティ法を定め個人情報の保護が行われています。

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用・提供されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用・提供を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先	済生会熊本病院 ○○科 ○○○○○○○○ 住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)
---------------	---